岩谷学園高等専修学校 2023年度 学校自己点検・自己評価

1.学校の教育目標

「わが学園は、教育を通して『努力心』『誠実心』『独立心』を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする」本学園の建学の精神をもとに
①社会を見つめ、自己の進路実現がかなうよう、指導支援する。
②生徒個々の自学力が向上するよう指導支援する。

2.教育目標具現化の施策

①本校の伝統を継承しつつ、新しい時代の教育要望に応える学校を構築する。
②教職員全員が自己の教育力を伸ばすと共に、学校の発展を進める。
③地域・中学校・大学・専門学校等との連携を強め、本校の存在意義や教育方針を広く浸透させる。
④教育相談やアップルームの活動を積極的に取り組み、理解を深める。
⑤学校安全を徹底し、安心して学校生活ができるよう環境を整える。

2023年度の取組目標とその評価

委員の評価 B

項目	取組目標	取組報告
教務	生徒一人ひとりを向上させる指導方法の工夫・改善を図る	「楽しい授業」を実施した。
		アクティヴラーニングの研究と授業実践をした。
		校内研修の充実を図った。
		放課後補習により自学自習・学習習慣の定着を図った。
		ICT教育を推進するため、研究を進めた。
		教育課程の研究を進めた。
	教育システムの充実	英語・数学・簿記の習熟度別クラス編成を実施した。
		ユニットベースを有効活用した。
	学校行事の充実	コロナ禍・5類移行後において、行事開催に取り組んだ。
	課題	新たなICT教育の技術が増えているが教科によって取り組みが異なるので、より一層の研修が必要である。
		生徒の実態に応じたアクティブラーニングの研究が必要である。
		年に2度研究授業週間を行った結果、ICT教育に関する知識がより身についた。コロナ禍・5類移行後の行事に関しては、事前の指導方法や当日の会場設営にも課題が残る結果となった。
	今後の改善方策	校内研修では、各教員が一役を担う形で年間を通して行ってもよいのではないか。
		定期的にICTを用いた授業の内容を共有する機会を設ける。
		アクティヴラーニングにおいてICT教材を用いて実施できるグループワークなどを研究・推進する。
		次年度の行事実施要項を立てる際には、行事報告書を十分に確認しながら検討していく。

委員の評価 B

進路指導	進路学習の充実	生徒・保護者対象の面談を計画的に実施した。
		3年間を見通した進路指導を計画し実践する。
		進路学習ブックの見直しをした。
		東海大学付属推薦希望者への進路指導を計画的に実施した。
		教員の進路研修を行った。
		就労移行支援事業所「Iピリーブ」との連携を深めた。
	課題	学年間で共有を図り一人ひとりに対応した指導が行えた。面接指導においては、かなりの時間を要する生徒がいたため余裕を持った計画を立てる必要があるる。
		教員の進路指導研修を系統立てて行う必要がある
	今後の改善方策	進路ガイダンス等を実施し、生徒の理解を深める。
		進路担当教員をある程度固定できると、企業等との連携も取りやすい

委員の評価 B

生徒指導	校内指導	あいさつ、言葉使いなどの基本となるマナーの定着を図った。
		安心安全に学校生活を送れるように、話し合いを設け、ルールの定着を図った。
		公共心・道徳心を養い、お互いを尊重する心を育成した。
	校外指導	学校周辺パトロールを実施した。
		警察や周辺の学校との連携を取り、情報交換した。
		学校周辺のコンビニを巡回し、利用マナーの定着を図った。
	課題	下校時に学校や駅周辺で生徒が寄り集まることがあった。
		生徒指導部で学年ごとの下校指導スケジュールを立て実施した。課題としては基準服に移行されたことによる服装の指導が難しくなった。
	今後の改善方策	クラスや学年において何か気になることはすぐに相談できる環境を作る。
		担任会等の会議において、教員で都度意見を共有し共通認識を持つ。

委員の評価 B

教育相談	教育相談	教職員が連携し生徒情報を共有しながら教育相談の充実に努めた。
		教員研修を実施した。
	課題	会議において細部にわたる生徒情報の共有を行う。
		学年間での共有は日常的に行えていたが学年を超えての共有は担任会がメインとなっていたため日常的に実施していく必要がある。
	今後の改善方策	校内研修では、各教員が一役を担う形で年間を通して実施する。
		職員間の情報共有を増やしていく。特に体育の授業では普段の学校生活からは見られない部分も多くあるため積極的に共有を行っていく。

委員の評価 B

保健安全	生徒の健康管理	定期健康診断の実施と、生徒の健康管理を行った。
		健康診断結果による勧告書を発行・回収した。
		時期に応じた保健情報を提供した。
		保健室の維持管理を実施した。
		保健室の適切な利用を指導した。
		清掃の計画と実施、点検を実施した。
	傷病事故の管理	傷害事故の把握（教科担当と担任との連携を密にする）をした。

	課題	コロナ禍から5類移行になり、保健室利用についての対応が遅れた。
		健康診断による勧告書の回収率が低かった。健康診断を実施するだけでなく、実施する意図を説明する。
	今後の改善方策	保健指導部の業務を再点検する。
		保健室利用生徒も増えてきているため、担任と連携を十分にとる。
		健康診断のお知らせを配布する際に、健康診断の意図を伝えていく必要がある。1,2年生では保健の授業があるため、授業内で健康診断を行う意図を伝えていく。

委員の評価 B

防災安全	災害時の対応	避難訓練を実施した。
		防災計画を作成（火災・地震・津波・風水害）した。
		防災備品を点検・管理・購入した。
		防災教育を推進した。
	課題	防災備品の管理を全員が把握していなかった。
		教員の避難訓練、生徒の避難訓練ともに実施することができた。今年度は学級での避難訓練となったが、災害はいつ起こるか予想できないため、次年度は学級担任外が実施することを検討していく。
	今後の改善方策	計画的な避難訓練の実施が必要であると感じる。担任する学級での避難訓練、通常時間割での避難訓練の実施を検討していく。
		防災備品点検の年間計画を作成し、行事予定に記載する。

委員の評価 A

施設管理	学校施設の整備	施設安全点検を実施した。
		情報関係施設管理を実施した。
	課題	貸し出し用タブレットの充電が不十分なことがあった。
		冬季部門内研修では学校安全についての動画を視聴し、学校内の安全管理について再度確認することができた。安全点検票以外にも点検箇所は多くあるように感じるため、安全点検を行う際にはより丁寧に点検を行う必要がある。
	今後の改善方策	貸し出し用タブレットの管理点検を計画的に行う。
		教室内の安全点検を行う際には同フロア内の教員または、学年教員で協力して行うことにより問題箇所の発見につながると考える。
		各教室の掲示板の配置を安全面から検討する。

委員の評価 B

生徒会	生徒会活動・諸行事を通じてリーダーシップの育成を図る	生徒会活動の推進、企画、実施を図った。
		執行部の指導、支援を図った。
		諸行事の指導、支援を図った。
		生徒会ブログ・新聞の編集・運営を推進した。
	課題	新年度役員に代わり、生徒会ブログや新聞の発行が行えていなかった。その背景には、生徒会役員の生徒の人数が昨年度に比べ減ったことや、学校内でのイベントに目を向けたことである。
		担当教員の共通理解と定期的会議が不足していた。
	今後の改善方策	学校説明会では役員生徒も参加しているため、生徒会ブログを掲載し広報活動を活性化する。さらに、生徒会役員を増やすためには生徒会選挙前だけでなく、定期的に生徒会見学会を実施する。
		担当教員の定期的会議を実施する。

委員の評価 A

特別支援教育	1人ひとりの特性に配慮した指導を行う	個別支援計画を作成した。
		個別支援計画、個人票の書式を見直した。
		生徒・保護者面談を定期的に実施した。
		保護者勉強会を企画・実施した。
		校内研修の充実を図った。
		医療機関等専門機関と連携した。
		進路について早期から多機能型事業所「Iピリーブ」と連携し、指導・相談を実施した。
	課題	特定の教員に頼ることが多くあった。
	今後の改善方策	年度当初に役割分担し、徹底して業務にあたる。
		SSWによる教員研修を継続し、より深く教員が学ぶ。
		今年度の研修を継続しより生徒一人ひとりあった手厚い指導を行っていく。個別支援計画の見直しを行う。

委員の評価 B

入試委員会	入試広報活動の充実	学校案内、募集要項を作成した
		広報制作物を作成した。
		HPを管理した。
		学校説明会・体験入学を運営した。
		外部相談会に参加した。
		中学校訪問を実施した
	課題	中学校訪問の2回目実施が難しかった。
	今後の改善方策	中学校訪問を行う際には、説明の時間をいただけるようアポイントを確実にとる。
		校内業務を計画的に進め、学校訪問に出られるようにする。
		入学定員の充足のため、中学校訪問や学校説明会等の充実を図る。

評価実施者 岩谷学園高等専修学校教職員
（評価期間 2023年4月1日～2024年3月31日）

＊ 各評価項目における評価点（「適切：4」、「ほぼ適切：3」、「やや不適切：2」、「不適切：1」）
その平均値（少数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表示）を以下の基準により表示した。

評価	基準
A	4.0～3.6
B	3.5～3.1
C	3.0～2.6
D	2.5以下